

男女共同参画推進センター

第6号

Newsletter

第8回 講演会を開催

男女共同参画推進センター主催の第8回目となる「講演会」が、2019年6月17日、中央教育棟 AW303 教室にて開催されました。東京家政大学女性未来研究所所長の樋口恵子氏を講師として迎え、「人生100年 女の一生・男の一生」と題して講演していただき、本学教職員、学生、そして八王子市民の方など約150名が参加しました。本講演会は、創価大学男女共同参画推進センターが中心となって提供する共通科目「ライフイベントとジェンダー」の授業の一環で行われました。

樋口氏は日本社会の少子高齢化に触れながら、「中国、韓国をはじめ諸外国でも少子高齢化は進んでおり、この問題への対応・解決は大きな問題になろうとしています。この問題を日本がどのように乗り越え、他の国の模範となれるかは重要であり、これは世界に向かって日本が果たせる社会貢献・世界貢献の道となるでしょう」と語られました。また、「高まる高齢化率のなかで、女性が占める割合はますます大きくなっているため、女性がハッピーでなければ、世の中や人生は暗くなってしまいます。平均寿命と健康寿命のひらきである10年以上の年月は、人生100年の1/10、高齢期の1/3に当たります。介護の問題などこれまで女性の役割であったものが、今では女性のみなら



ず男性の課題にもなっています。日本の社会がどう変わっていくのか、人口構成や家族のあり方の劇的な変化への対応をしっかりと考えていくべきだと思います」と述べられました。

参加した学生からは、「教科書では学べない、生の声、体験談などを含めた講演でも説得力があり、『世界の中の日本』という視点で改めて日本を考えることができました」等の声が寄せられました。また八王子市の広報を見て参加された方からは「いろいろなことを考えさせられました。これからの生き方の参考になりました。今年で80歳です。参加できてよかったです」等の感想もいただきました。



第3回 馬場学長と女性教員との懇談会開催

2020年1月24日に第3回「学長と女性教員との懇談会」が開催され、学部を越えて15名の女性教員が参加しました。

まず、花見男女共同参画推進センター長より昨年の懇談会で提議された事項について、その後の取組みについての報告がありました。次に、懇談会前に行われたアンケートで要望があったひとつひとつについて、馬場学長やセンター長より現状や今後の改善の方向性に関する説明がありました。つばさ保育所の一時保育に関する見直し、女性教員・職員の役職者登用の推進、教員の業務内容見直しの必要性、多様性と共存の推進、キャリアパスに関する支援、学術面以外の分野で活躍した学生を顕彰する機会などについて、今後のあり方が示されました。最後に学長より、ダイバーシティーに富んだ優れた教育環境を築くために様々な取組みを加速させていきたいとの話がありました。

参加者からのアンケートでは、「学長へ直接意見を届けられる貴重な場」「これら重要な議論について女性だけではなく、男性教員も交えた話し合いの場が必要ではないか」「多岐に渡る全学的な情報を補完できる重要な機会」「現場のニーズに合わせて非常勤講師の採用を柔軟に」「女性教員や役職者比率を定める際は現状を踏まえての議論を」「『男女共同参画』から『多様性推進』センターに」といった様々な意見がありました。



第5回介護セミナーを開催

2019年11月13日、看護学部棟N302教室において、「第5回介護セミナー」を開催しました。今回は、日野市地域包括支援センターあいりんの介護支援専門員で社会福祉士の本村雄一氏を講師にお迎えし、「高齢者支援の現場での事例紹介」というタイトルでご講演いただきました。セミナーには、本学の教職員や学生、また学外で介護職に従事されている方や家族介護に直面しておられる方などが多数参加されました。

講演の冒頭では、介護保険の概要説明とともに、介護保険と医療保険との比較、サービス利用に必要な認定、訪問調査の際の項目などにつ



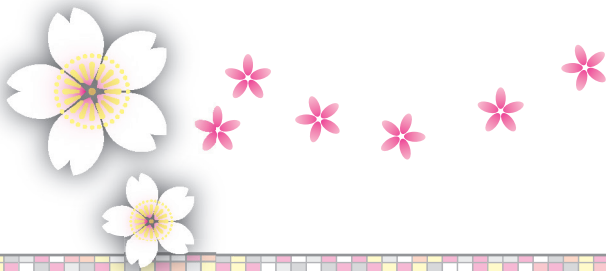
いての説明がありました。

次に、介護保険サービスとしての在宅サービス、地域密着型サービス、施設介護サービスの特徴や、地域包括支援センターの役割についての解説がありました。さらに、「介護保険の申請はどうすればよいか」「認知症の対応についてどこに相談すればよいか」といった問題への解決策の提示

とともに、成年後見制度や「80-50問題」といった現在の大きな社会問題についても解説していただきました。

参加者からのアンケートには、「実例が豊富で分かりやすかった」(教員、女性)、「今後介

護職に就くために、今日の話を中心に留めておきたい」(看護学部生、女性)、「認知症の母親を抱えるご家族の悩みに対する講師の回答が、とても参考になった」(一般参加者、女性)などの感想が寄せられました。



「ランチタイムミーティング」を開催

2019年5月31日に第2回、11月29日に第3回となるランチタイムミーティングを開催しました。

第2回 ランチタイムミーティング

第2回は「がんを防ぐライフスタイル」とのテーマで看護学部の中泉明彦教授に担当していただき、約20名の教職員が参加しました。

がんを防ぐための新12か条、生活習慣見直しポイント、がんをめぐる現状と展望、がんに負けない生き方等々についてわかりやすくお話をしていただきました。引き続き、参加者の皆さんと質疑応答を交えて懇談的に和やかな雰囲気の中で意見交換が行われました。

参加した教職員からは、「がんは自分もなる可能性があると思うと、今の人生を大事にし、

充実させたいと思います」、「とてもわかりやすく、アットホームな雰囲気よかったです」等の感想が述べられました。



第3回 ランチタイムミーティング

第3回は本学「つばさ保育所」の高橋健司所長を講師にお迎えして「令和時代の仕事と子育ての両立ーワークライフバランスはもう古い？ー」のテーマで開催し、これには15名の教職員が参加しました。

高橋所長からは、今、働き方は自分で選択できる時代になりつつあり、「仕事が生活か」ではなく「仕事、家庭、コミュニティ」の3つを統合していく時代であるとの説明がありました。また、子どもが健康に育つためには、親や保護者との愛着形成が不可欠であるとの指摘がありました。さらに、人間主義、世界市民、SDGsの観点からつばさ保育所で実践されている特色ある教育についての報告もありました。

参加者からは、「創価大学の資源をフルに活用し、先進的な教育が行われていることに感動した」、「つばさ保育所に子どもを預けているが初めて知ることも多く、貴重な体験となった」などの声が寄せられました。



つばさ保育所だより

創価大学の教職員の皆様をはじめ、地域にお住いの多くの方々に支えられ、つばさ保育所は令和元年9月に開設3周年を迎えました。心より御礼申し上げます。(所長 高橋健司)

★0歳からのSDGs教育★

5月から園庭でニワトリ(東京うこっけい)の飼育を始めました。飼育小屋は所長がDIYで作られ、扉はお子さまと一緒にペンキ塗りをしました。お子さまは餌やりや卵の収穫をして、卵を使った料理やおやつを食べています。また、小屋の中に園舎周囲の落ち葉を敷きつめ、鶏糞と混ぜり合せてできた堆肥を園庭の畑で再利用し、育った野菜を収穫します。この食育活動を通して命の大切さを学び、「いただきます・ごちそうさま」の気付きにつながるなど、SDGsに楽しく取り組んでおります。



★中国の幼稚園との交流会★ 2019年7月9日



中国四川省眉山市の云堡智能幼稚園の先生方・ご家族御一行が訪問されました。これは教育学部の鉤教授と中国人留学生ゼミ生の橋渡しで実現したものです。「熱烈歓迎」ムードの中、お子さまと歓迎の歌を歌い、準備した手作りのプレゼントを渡しました。

お子さまは言葉が通じなくてもすぐに打ち解け、一緒に遊びます。

創立者の開かれた日中友好の道を、つばさ保育所のお子さまも歩んでいます。

★第4回「つばさフェスタ」&ウイングくん誕生★ 2019年10月26日

毎年恒例となったつばさフェスタ。「つばさ保育所から世界へ」のテーマのもと、ブラジル、インドネシア、香港、ボリビアからの留学生による「ベビーシャーク」ダンスを全員で踊ったほか、アカペラバンド、Soka Magician's Program、イチャリバチョーデーズ、児童文化研究部などの学生も出演。フィナーレでは170名の参加者が総立ちになってカチャーシーを舞い、会場が一つになりました。

また、つばさ保育所のマスコットキャラクターが発表され、参加者の投票で「ウイングくん」と名付けて頂きました。世界に羽ばたくイメージで可愛く、皆様からとても好評です。



利用者の声

開設当初から長女と長男が入所させて頂いています。学内をお散歩する中で、学生さんや教職員と触れ合い、大人への信頼感を育てているようです。また、乳幼児期から世界市民として国際的な感覚を育てることを大切にしてくださ

り、その効果でうちの子は街で海外の方と合うと、積極的に英語で話しかけています。すべての人に壁を作らず、仲良くなろうとする姿勢を育て頂き感謝でいっぱいです。

「オープンカフェ」を開催

2019年6月28日に第9回、10月31日に第10回となるオープンカフェを開催しました。

第9回 オープンカフェ

第9回は看護学部の今松友紀講師にご担当いただきました。看護学研究の意義、看護という仕事の奥深さ、夫婦間での励まし、子育てと教育・研究の両立などについて、貴重なお話をされました。学生時代から現在に至るまで、恩師や同僚との出会いや、多くの人々の励ましがあったからこそ、現在の自分があると、ご自身のご経験を通して、参加学生にエールを送りました。講演後は、「あなたが思い描く自分らしい生き方とは？」などのテーマのもと、有意義なディスカッションが行われ、参加者からは、人生における出会いの大切さや、自分を知ることの大切さを学ぶことができた、などの感想が寄せられました。



第10回 オープンカフェ

第10回は理工学部の藤原和夫准教授にご担当いただきました。大学教員に至るまでに、自分の興味の方向、進路の分岐点があったことを通して、どの進路でも諦めずに粘り強く挑戦し続ける「やり抜く力」の大切さを語られました。創価大学理工学部2期生として大学院までの学業、研究のエピソード、現在の子育ての工夫など、様々な経験を話して頂きました。「10年後、5年後、1年後、半年後の目標は？」というテーマで、小グループに分かれたフリーディスカッションを行いました。参加者からは、お互いの目標を共有することで、具体的に自分の将来像を考える場になった、などの声を頂きました。



女性教員サロンを開催

本年度は「女性教員サロン」を各学期ごとに1回ずつ開催しました。春学期は6月5日に、“SDGs and Soka Women (SDGsと創価の女性)”をテーマに開催しました。特に、「the Sustainable Development Goal 5: Achieve gender equality and empower all women and girls」について話し合いました。学部を越えて15名の参加者が「SDG5」について学び、通訳を通して、様々な意見を交換できました。秋学期は1月17日に9名の参加者で、テーマ“Higher Education in 2020: Trends and Challenges Facing Women (2020年における高等教育：女性が直面する動向と課題)”のもと、高等教育における現在の「動向」と「課題」に

ついて話し合いました。国際化、留学の効果・評価や、互いの意見を正しく聞く力などが「動向」として挙げられました。「課題」としては、留学から帰国した学生の就職活動問題、教員として勇気を出して発言する力、男女の平等などについて議論され、女性教員としての様々な生き方があり、その姿を通して、学生を激励することの大切さが述べられました。参加者がとても元気づけられ、次回のサロンを楽しみにしている様子でした。



ワーク・ライフ・バランス相談窓口

男女共同参画推進センターでは、教育・研究活動や大学業務に安心して取り組んでいただくために、相談窓口を設置しています。

仕事と家庭生活の両立、介護や妊娠・出産・育児に関する事など、気軽にご利用いただければと思います。

利用に際しては、事前に予約が必要となりますので、ポータルサイトより、予約画面を開き、必要事項を入力・送信して申込みください。

ご相談内容は、プライバシーを守り、安心して相談できるように配慮いたします。

●お申し込み方法（事前予約制）

ポータルサイト「ツール・リンク集」-「学内サイト」-「ワーク・ライフ・バランス（WLB）相談窓口」のフォームから申し込みしてください。

「介護休業」「育児休業」について

介護休業

- ① 要介護状態にある家族を介護する教職員は、申し出ることにより、介護休業をすることができる。
- ② 休業することができる者は、原則として、勤続年数が1年以上で、かつ、介護休業の開始から起算して93日を経過する日から6カ月を経過する日までに雇用契約が終了することが明らかでないこと。
- ③ 要介護状態にある家族とは、負傷、疾病又は身体上若しくは精神上的の障害により、2週間以上の期間にわたり常時介護を必要とする状態にある者で、(1)配偶者、(2)父母、(3)子、(4)配偶者の父母、(5)祖父母、(6)兄弟姉妹、または(7)孫とする。
- ④ 介護休業の期間は、対象家族1人につき、通算93日以内で、回数は、同一対象家族について3回までとする。

育児休業

- ① 1歳に満たない子と同居し、養育する教職員は、申し出ることにより、育児休業をすることができる。
- ② 休業することができる者は、勤続年数が1年以上で、かつ、子が1歳6カ月に達する日までに雇用契約が終了することが明らかでない者とする。
- ③ 配偶者が、教職員と同じ日から又は教職員より先に育児休業をしている場合、教職員は、子が1歳2カ月に達するまでの間で、出生日以後の産後休業期間と育児休業期間との合計が1年を限度として、育児休業をすることができる。

★介護や育児で休業を取得した方は、給付金や社会保険料免除などの支援がありますので、ご相談は人事部人事課までお問い合わせください。

編集・発行 創価大学男女共同参画推進センター <https://www.soka.ac.jp/particip/>
発行日 2020年2月27日
センター長 花見常幸
センター員 浦上輝子／岡部史信／木下聖子／小林孝次／近藤重弘／齋藤之美／高橋誠／
富岡比呂子／中村玲子／西山道子／藤本和子／御崎由久／森富士子
問い合わせ sankaku-center@soka.ac.jp



QRコードはこちら